

聴覚・人工内耳センター

● スタッフ（2022年10月1日現在）

センター長 西山 信宏

言語聴覚士 4名

事務員 1名

● センターの特徴

当センターは補聴器や人工内耳埋め込み術をふくめ聴覚に関する医療の様々な社会的背景とニーズから、東京医科大学病院に「聴覚・人工内耳センター（きこえと言葉のケア）ACIC：Auditory and Cochlear Implant Center of Tokyo Medical University_Care for Hearing and Language」として2008年に設立されたものです。本センターの設立趣旨は、難聴者への補聴器や人工内耳に関する医療と、聴覚障害でお困りの方のケアの両立にあります。大学病院耳鼻咽喉科としての社会的貢献を基本に、医師、言語聴覚士を中心としたチーム医療を行い、かつ聴覚障害でお困りの患者様のケア（先天性高度難聴児では言葉のケアも含める）を進めます。本邦における本領域の医療においての最先端モデルを構築し、教育・療育情報発信型のセンターをめざしているのがその特徴です。

● 対象疾患と診察実績

聴覚・人工内耳センターでの治療にあたっている患者の多くは難聴のある方で、補聴器や人工内耳を装着している方や、今後装着する可能性がある方ですが、そのほか言語の発達、構音の発達についての評価、訓練をおこなっています。

補聴器適応のある方には複数の補聴器を試聴していただき、その装着効果を測定し、ご当人によりマッチした機種を選定をおこなっています。成人だけでなく、小児難聴での補聴器装用の導入、指導、管理も行います。

人工内耳装用の方は機器の管理、プログラムの調整や付属機器の管理、故障やトラブルへの対応などを行います。人工内耳による聞き取りの評価や、難聴を伴う小児での発音やことばの習得にむけた訓練指導を行っています。患者数などについて示します。

総外来患者数は2498名。

初診患者数は136名。

人工内耳埋め込み件数は61件です。

○人工内耳装用者

○補聴器装用者 試聴システム参加70名、補聴器持参者の経過フォローなど多数。

● 最近の動向

従前よりつづけている複数機種補聴器試聴システムは補聴器機種の比較に有効だけでなく、装着自体に馴れるために十分な時間をとれる利点があります。比較的高齢の方からのご相談も多く、ご自身のペースで進めて

いただいています。本年も多くの方にご参加いただきました。

小児では診断・治療・手術などの医療のみならず、成長後の大学進学や就職の時期をむかえる患者様のさまざまなサポートに特に力をいれています。近隣の教育機関との連絡、連携も進めております。

低年齢児においても難聴精査のケースが多くあります。難聴相談のみでなく、構音や言語訓練など言葉の問題にて受診したものもみられます。補聴器装用、指導管理は毎週火曜日に補聴器メーカー担当者と協力しながらおこなっています。従来気導補聴器のみでなく骨導補聴器や軟骨伝導補聴器にも対応しています。

出生後の新生児聴覚スクリーニング検査により、再検査の指摘を受けた際の精密検査も行っています。音刺激を加えた状態で聴覚反応を測定する電気生理学的検査、ならびに行動観察による聴覚反応の確認などを行います。他覚検査としてABR、ASSRなどを行いますが、当院では骨伝導のASSR検査が行えます。聴覚評価が難しいとされる小児の骨導評価に効果を発揮します。このほか3歳時健診や就学時健診などの際に受診を進められるケースにも対応します。必要に応じて各地域の療育機関や、小児科等とも連携しています。

● 今後に向けて

当センターは他に無い難聴者に特化したセンターと言えますが、患者数の増加と症例の多様化が進んでおり、常に新しい課題が生じていると感じられます。難聴者の補聴器や人工内耳の医療のみではなく、広く社会的な聴覚障害者への対策なども視野にいれ、業界団体、教育機関、関係機関とも連携し、聴覚障害者の治療とサポートに努めていきたいと考えております。